



Narashino International Association

# SQUARE スクウェア

季刊会報

第 95 号

2011年9月1日

Narashino International Association (NIA)

2011年タスカルーサ市さくら祭り（テーマ：情熱、Passion）（訳：アラバマ大学）

## アラバマ大学主催俳句コンテスト受賞者発表

たくさんのご応募ありがとうございました。このコンテストは1990年以来21年の歴史があり、今回は姉妹都市提携25周年の記念コンテストです。受賞者の皆さまおめでとうございます。

### 小1～3年

名誉賞

八田 美晴 習志野市立谷津小学校

かんげいこ つめたいあしでも まけないぞ

Winter practices ; Through my feet are freezing My sprit hotter than

### 小4～6年

1 位

小林 哲大 習志野市立屋敷小学校

その白球 打って見せるぞ この俺が

The first white baseball I will be the first one To hit it hard

2 位

藪崎 真由 習志野市立大久保東小学校

書き初めに 情熱もやす 席書会

All enthused, We join the calligraphy meeting for the new year

3 位

渡辺 久 習志野市立屋敷小学校

リフティング 日が暮れるまで 練習だ

Lifting practice ; We work Until the day gets dark

### 成人の部

1 位

今井 紅洋

薪能 情念のシテ 三つ歩む

The torched-lit stage : the Noh protagonist moves forward three steps with Intense emotion

2 位

藤田 邦枝

情熱を 花芯に秘めし 桜かな

Cherry blossom flower As if opening up their Emotion Hidden in their hearts

3 位

菱木 照子

鬼気迫る 気魄のタクト 胸の牙ゆ

A spirited conductor Swings his baton powerfully My heart is purified

記：習志野市教育委員会、市民、会員、関係者の皆さま7年間大変お世話になりました、今後は新任理事、姉妹都市交流部会長の日向洋美さんに引き継ぎされます。今までと同様俳句コンテストへの応募宜しく願い致します。  
(今井 洋子)

## 特集 “NIA での楽しい集い、学び、そして語らい”

現在 NIA ではさまざまな活動が行われています。今号では、参加者の体験を通して NIA での活動を紹介します。あなたもぜひ参加してみませんか。

### 新活動 “NI-Youth” にぜひ参加を

細 根 翔 平  
ガス ハンボル

みなさんこんにちは

NI-Youth という名前は初めて耳にされたのではないのでしょうか。私達は習志野市を中心とした青少年交流活動を活発にする目的で結成された若者を中心とした団体です。今までの青年委員会の新しい形とを考えていただいて良いでしょう。

最近習志野市から派遣される青少年の姉妹都市交流事業もなくなり、市内での外国人を交えた青少年交流活動もなかなか行われなくなってしまいました。このままではいけないということで、現在は NIA 会長をはじめ事務局や他の部会の方々に支えられながら交流会などの企画・運営を行っています。

今までに 5 回の交流会やイベントを開催しました。主な参加者は近隣の大学生や留学生、習志野外語学院という日本語学校の生徒さん、また ALT として働いている英語の先生たちなどです。皆さんの国籍も様々で、日本を始めとし、中国、モンゴル、アメリカ、イギリス、スリランカやブラジルなど世界中の方々です。

今後の活動予定ですが、9 月からは今までしてきた日本語・英語での交流会の他に映画鑑賞会、スポーツ交流会なども行っていきます。多くの方々に NI-Youth のイベントに参加してもらえたらと思います。また、イベントに参加するだけでなく、イベントを一緒に作ってみたいという方も大歓迎です！

月に 1 回開かれる定例会に参加してみんなで楽しい交流会を企画していきましょう。NI-Youth ではいつでもみなさんの参加をお待ちしています。ご希望の方は、NIA 事務局までお尋ねください。



### Call us NI-Youth

Hosone Shohei  
Gus Hahn-Powell

Hello everyone.

Perhaps this is the first time that you've heard the name "NI-Youth." We are a diverse group of young people centered in Narashino who gather for spirited discussions and cross-cultural exchange.

In recent times, there have been few opportunities provided by the City for cross-cultural exchange among the young people in and around Narashino. In April, 2011, beginning with the support and encouragement of the chairman of NIA and then the larger NIA community, we established NI-Youth to create a fostering environment where the young people of Narashino could gather and interact. Our membership currently represents some ten countries, including China, Mongolia, the US, England, Sri Lanka, Brazil, and of course Japan.

Already NI-Youth has held five events. Participants have included: university students from around the area, international students, students from the Narashino Foreign Language Institute, Narashino ALTs, and others.

We have a variety of events planned for the coming year. From September, our group will

begin an English-Japanese film series. There are also a plan in the works for a sports event. The group is open to young people in Narashino, whether their interests lie in participating or planning new and exciting events. For more information about meetings and upcoming events, please contact the NIA office.









## 教えることは勉強になる

梅花会 カク タイキ(郭 泰基)

“他人に教えるのも自分の勉強になることです”と言って、栗原先生は私に中国語を教えることを勧めてくれました。栗原先生は私に日本語を教えてくれるボランティアの先生です。

この言葉をきっかけに、今年の一月から梅花会という中国語教室をはじめました。教材は中国語の子供向けの物語です。わたしは、説明は上手ではありませんが、中国のいろいろな事情を紹介しています。

日本語で中国語文法を説明する時にはいろいろな

表現が必要になり、それが日本語の勉強になります。なるほど何かを教えることも日本語の勉強することだったのか、と気が付きました。一方で日本人のみなさんは、日本の事情を紹介してくれます。

このようにして、礼儀作法、習慣、物事の見方など両国の文化を知ることができました。今まで私は日本人たちとの交流は挨拶ぐらいでしたが、梅花会のお蔭でたくさんの日本人の友たちができました。

梅花会を作って本当によかったです。これからは、中国の事情を日本人の友だちに紹介することや、私の日本語と、日本人の中国語のレベルをさらに高めることに努力をしたいと思います。

## パラグアイの村でカバン作り

“現金収入が村を変えた”

青年海外協力隊 平成 20 年度 4 次隊

パラグアイ派遣 村落開発普及員 菊 谷 通

私は、JICA の協力隊事業に参加して、南米大陸のパラグアイ共和国へ派遣されました。そして3月24日に2年間の任期を満了して帰国しました。

私の仕事は、村落開発普及員としてパラグアイ北西部のチャコ地方に住む先住民ニバクレ族の生活改善と地域を活性化することでした。

赴任したジャルベサンガ村は、首都アスンシオンから北西部へ約420km離れた農村で、集落には水道・ガス・冷蔵庫・トイレ・洗濯機もなく、周辺にはアルマジロ、イグアナ、アリクイなどの珍しい動物が生息するところです。この村でホストファミリーの家庭に2年間ホームステイしました。

現地のニバクレ語を村の小学校で学び、現地の人と同じ目線に立って、ニバクレ族の文化と習慣に触れてみると、ここには伝統的な民芸品があることに気が付きました。手作業で作るカラワタのカバンです。狩猟民族のニバクレ族が狩りで獲た鳥や魚を運ぶカラワタのカバンは、森に自生する植物から繊維を取り出し、草や木と煮込んで糸を染め、動物の模様を大きな針一本で編みあげるものです。ニバクレ族の生活改善と地域の活性化のために、私は、村で薪集めや水汲みをしている女性たちとともに、そのカラワタのカバンを商品化する活動を始めました。

2年間で446個を作りました。日本の不動産会社で営業マンをしていた私の経験も役に立ち、パラグアイと日本で販売し、約32万円を売り上げました。それまで現金収入の仕事をする習慣のなかった村の女性たちは約26万円の収入を得たのです。この活動のために作られた組合は約6万円の活動資金を得ました。そして民芸品製作販売の活動は、組合の新しい収入源としてこの村で継続されることになりました。

現金収入が得られるようになったため作り手が増え、また年配の女性から若い世代へと伝統技術が継承されるようにもなりました。仕事をめた村の女性は元気を得て、さらには外国人に対して閉鎖的だった集落も開放的になりました。

私は今後も、日本でニバクレ族の文化と民芸品を紹介する機会を作っていきたいです。そして、またいつか第二の故郷となったチャコ地方へ、ニバクレ族の家族と仲間に会いに行きたいです。



ジャルベサンガ村の人たちと筆者

フットボールの本場で大感激

## タスカルーサ市アラバマ大学を訪ねて

アメリカンフットボールチーム  
オービックシーガルズ ヘッドコーチ  
大橋 誠

タスカルーサ市にあるアラバマ大学フットボールチームは全米屈指の強豪チームです。1892年の創部以来、全米チャンピオンに13回という他の追随を許さない輝かしい実績を上げ、常に大学フットボール界を牽引してきています。今でも大学最高のフットボールコーチとして伝えられるポール“ベア”ブライアント氏を始めとする数々の名将や有名プレイヤーを輩出してきました。現在のヘッドコーチ、ニック・セイバン氏も2009シーズンにチームを全米チャンピオンに導きました。

ちなみにトム・ハンクス主演の映画「フォレスト・ガンプ」の中でフットボールのシーンがありました。あの舞台はアラバマ大学です。



今回の訪問では、Lisa Keyesさんが我々一行を迎えてくれました。Keyesさんは一年前に、コーディネーターとしてタスカルーサの高校生を引き連れて習志野市を訪れた際に、わがオービックシーガルズのグラウンドにも来てくれたのです。そして彼女の案内で大学の体育局へ行き、そこでVIP Passをもらって大学内のいろいろなところを見学させていただきました。

見学して驚いたのは、まず天然芝3面、人工芝1面、フルフィールドの室内練習場、同時に200人はトレーニングできるジムなど施設の素晴らしさです。さらに全米から集まってきた選手たちの切磋琢磨する練習ぶり、情熱を持って指導するコーチたち、プロ意識で仕事をするスタッフの人々でした。これが脈々と続く強さの秘訣かと感じました。

野球小僧が憧れのプロ野球チームのキャンプに参加したかのような、感激と興奮の滞在でした。

習志野市の方から贈られた、満開の桜を見ながらタスカルーサを後にしました。

## タスカルーサ市姉妹都市 25周年 記念訪問団

7月24日午後2時より習志野市消防庁舎で、姉妹都市提携25周年記念のために8月23日～30日に渡米するタスカルーサ市訪問団の結団式が行われました。結団式には総勢40名のうち33名が参加。NIA崎山会長から、両市が今回互いに震災と竜巻を被災し、共に助け合うことで絆が深まった旨の挨拶がありました。そのあと宮本市長の挨拶、参加者の自己紹介に続いて詳しい日程の説明がありました。

今回の訪問でのメイン・イベントは、現地到着後3日目に行われる公式晩餐会です。今回タスカルーサ市では習志野市との姉妹都市提携25周年、ドイツのショーンドルフ市と提携15周年、ガーナのスニヤニ市との友好都市提携のため、4大大陸200人が集う祭典を兼ねた晩餐会が開かれます、そこでは各都市から伝統的な演芸が披露されることになっています。

今回、日本からは中村一座が参加する予定です。当日のパフォーマンスの最後には、訪問団全員が参加するというシナリオを一座の皆さんが用意してくださいました。結団式ではその練習も行われ、楽しい雰囲気の中で幕を閉じました。



### スクウェア 第95号

発行 2011年9月1日

#### 習志野市国際交流協会

発行責任者 崎山 征雄  
編集責任者 高山 進三郎

〒275-0016  
千葉県習志野市津田沼5-12-12  
サンロード津田沼4F  
TEL/FAX 047-452-2650

<http://www.nia08.com/>  
<Eメール> [nia@seaple.ne.jp](mailto:nia@seaple.ne.jp)